

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 37	日常生活の様々な場面において、自己決定できるように働きかけているが、利用者の希望が十分に引き出せているとは言えない。特に、重度化した場合や終末期のあり方についてどのように考えているかについて、本人の意向を十分に把握できていない。	重度化した場合や終末期のあり方について、それぞれの思いや意向をくみとることができる。	①紙芝居や絵本の読み合いを通し、「生きること・死ぬこと」についての考えをタブーにせず語り合う。 ②日常会話や思い出の会(グループ回想法)の中で、さりげなく自然に死生観や健康観を語り合う。 ③①②で語られたことや、問われた時の様子(表情やしぐさなど)について、家族様とも共有しながら、さらに本人の思いを推察する。	12か月
2	40 41	嚥下機能の低下により、形態の工夫や介助を要する利用者様の「食事を楽しむこと」ができるための工夫が不足している。	「むせなく召し上がる」「栄養をとる」ことだけを目的にせず、視覚や食感・味覚に呼びかけ、食事をより楽しめるようにする。	①ひとりひとりの摂食嚥下機能を正しくアセスメントする。 ②①にあった食事の形態を知り【見直し】、調理法や介助の方法について学び実践する。	6か月
3					か月
4					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。